

泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団 国会通信



●大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団 連絡先 弁護士 伊藤明子 078-361-9494



泉南アスベスト 早期解決めざし 院内集会に 一四〇人

4月7日、衆議院第2議員会館において、「泉南アスベスト被害の早期救済を求める院内集会」が開催されました。集会には、原告団や弁護団をはじめ、アスベスト、じん肺、公害関係などから一四〇名が参加し、国会議員も、民主党、公明党、共産党、社民党、みんなの会から23名が参加（本人出席11名、秘書出席12名）、判決を直前に熱気溢れる集会となりました。わが国で初めてアスベスト被害に対する国の責任が裁かれる泉南

政治解決への決意（敬称略）

谷 博之（民主・アスベスト対策推進議連幹事長）

議連では、この泉南国賠の判決が必ず勝利するとみて、その後の政府の対応、国会として果たすべき役割などについて、議論を深めていきたいと当面の活動をスタートした。政権交代後、命をまもる、暮らしをまもる政権が、こうした大きな被害を受け、今も多くの方が苦しんでおられる問題について責任を果たさなければならぬ。

郡 和子（民主・議連事務局長）

アスベスト根絶に向けて法整備をすると掲げて、政権に就かせていただいた。国は知っていた、できた、でもやらなかったんです。このことを重く受け止めて私たちも政治の場でしっかりと取り組ませていただくことを約束したい。

稲見哲男（民主）

5月19日に勝訴判決を勝ち取ることに前提になるが、こういう形で大きな全国的な運動に生まれて、それに対して政治家が動きをしていくということが大事です。今後とも

なさんと一緒にがんばりたい。
辻 恵（民主）

何としても5月19日は勝訴判決を実現していただきたい。しかし、それだけでは全面解決しない、政治の役割を痛感する。民主党は、国民生活の安全安心をうたって政権に就いているから、必ず国の責任で救済を図るよう全力でがんばりたい。

大谷 啓（民主）

国は間違いなく知っていた。にも関わらず何の手も打ってこなかった。こういうことに対しての責任をしっかりと国は負う必要がある。政権交代は、これまでのいろいろなある国の不作為に対して、国が責任を取るきっかけになると思う。政治の側面のみなさんを支援していきたい。

森山浩行（民主）

みなさんと一緒にしっかりと解決していきたい。ここが大きな転換点になるように一緒にがんばっていききたい。

吉川政重（民主）

救済法があるが、労災と比べたらかなり低い保障であり、隙間もある。判決は勝利を確信している。勝っても、国が控訴しないような働きかけも、思いっきりやりたい。

服部良一（社民）

国が知っていて放置してきた責任

は、大変重い。社民党も労働者の生活と権利を守る立場でしっかりと責任を取る形で頑張る。

宮本岳志（共産）

アスベストの被害は、本当に政治の責任、国の責任がはっきりしている。欧米に比べても放置してきた責任が問われなければならない。依然としてこうしてたまたかわなければ救済されないのは大きな問題。一緒にがんばりましょう。

吉井英勝（共産）

国の責任はアスベスト産業を進めたいという責任と、被害がわかってからも対策をとらなかったという二重の責任がある。今回の国賠は今の救済という仕組みを補償という形に変えさせていく上でも非常に大きな意味があると思う。

川田龍平（みんな）

超党派で議員が一致して行政に働きかけていき、本来の政治主導にならないと、早期の解決はむずかしい。患者、当事者の立場で、救済でなく賠償・補償の立場で解決させていくことが大事。これからは皆さんともにもがんばっていききたい。

いよいよ5月19日判決！

判決報告院内集会

5月19日（水）

午後4時～5時半

参議院議員会館

第4会議室

原告たちの声を聞いてください

夫の無念、苦しみを、どうか分かって下さい

泉南アスベスト国賠原告 佐藤美代子



私の夫佐藤 健一は、昭和 49年(29歳) から60歳まで 32年間、泉南 の石綿工場で

真つ白で粉雪をかぶったようでした。 50歳頃から、咳をするようになり

ました。のどの奥から「ゴホッ!ゴ

ホッ!」と、痰が出るまで何遍も咳

き込みます。60歳の秋、「石綿肺」で、

最も悪い管理区分4と言われまし

た。夫は「大丈夫や。心配せんでも

ええ」と口では強がりをつけていま

した。その後、咳と痰はさらにひ

どくなり、少し動いても、はーはー

働きました。夫が働いていた工場の

ドアを開けると、ものすごいホコリ

で、1メートル先も見えませんでした。

工場から出てきた夫は、鼻と口

をタオルで縛り、頭から足の先まで

識しながら対策を講じてこなかった、そ

の責任を問う裁判です。国は知ってた、

できた、でもやらなかったんです。

5月19日に判決がでます。私たちは国

はすぐに責任をみとめ、被害者を救済す

ることを求めています。

裁判がはじ

まった頃には

屋間は歩きま

わることができた原告も、何人もが今は

酸素吸入がないと生活できなくなってい

国は知ってた、できた、でも、何もしなかった

南の石綿産業は一

〇〇年の歴史があ

り、全国に広がる

石綿被害の原点です。泉南地域には石綿

泉南アスベスト問題とは?

「石綿のまち大阪・泉南」、石綿被害は戦前から深刻に進行し、今なお被害は発生し続けています。原告らは、そうした泉南で働き、暮らした石綿被害者です。泉

南アスベスト国賠訴訟は、国自身が一九三七年から泉南地域の工場労働者などを調査し、アスベストの健康被害を認

と肩で息をするよ

うになりました。

診察のたびに酸素

吸入を勧められま

した。でも、夫は頑として受け入れ

ませんでした。いったん酸素を使っ

たら放せなくなり、「もう自分は最

後だ」と思っていたのです。

去年の3月頃から、顔色もますます

す悪くなり、頬もこけ、食欲もなく、

夫の容態は目に見えて悪くなりました。

た。5月6日には、酸素を、自分か

ら付けると言いました。あんなに嫌

がっていたのに。もう自分の力では

呼吸できなくなっていたのです。

5月19日、先生から、「佐藤さんは、

アスベストによる肺がん」と言われ

ました。夫は、パニックになって、

血の気が引いて顔色が真つ白にな

り、大声で「俺は、どうせ死ぬんや、



●写真は、石綿紡織の工程のなかで、撚糸(ねんし インター)という工程です。精紡のできた単糸を2~5本を合わせて撚りをかける工程です。この写真ではマスクをしています。糸が切れたり機械とこすれて大量の石綿粉じんが発生しました。

それから3週間、6月6日未明に夫は息を引き取りました。64歳でした。5月31日夜、私が夫に「パパ、明日、入院するよ。」と言うと、「うん。」と頷き、かすかな声で「ありがとう。すまん。」と言って、泣いていました。これが夫と私の最後の会話になりました。

「肺がんです。」と言われた日、私は夫に「パパ、なんでこんな病気になるったんかなあ?」と聞きました。

すると、夫は「アスベストかなあ?アスベストやなあ」「俺は何も悪いことしてないでなあ」「俺は子ども

育てるのに、一生懸命仕事してたのに、何でこんなになつたんや」と悔しそうに言いました。アスベストは

怖いんです。本当に憎いです。夫を帰してください。夫の無念、苦しみを、

どうか分かって下さい。

た。

た。

た。

た。